

第九十回  
帝國議會  
貴族院

# 地方競馬法案特別委員會議事速記第一號

## 付託議案 地方競馬法案(案)

### 委員氏名

- |      |          |
|------|----------|
| 委員長  | 子爵西尾 忠方君 |
| 副委員長 | 男爵三須 精一君 |
|      | 公爵德川 慶光君 |
|      | 侯爵四條 隆徳君 |
|      | 伯爵南部 利英君 |
|      | 子爵北小路三郎君 |
|      | 小山 松吉君   |
|      | 松村眞一郎君   |
|      | 男爵德川 誠君  |
|      | 男爵斯波 正夫君 |
|      | 瀧川 儀作君   |
|      | 安田伊左衛門君  |
|      | 有馬忠三郎君   |
|      | 名古屋三吉君   |
|      | 名古屋三吉君   |
|      | 渡部 信君    |

昭和二十一年九月十一日(水曜日)午前十時三十分開會

### ○委員長(子爵西尾忠方君) 只今ヨリ

地方競馬法案ノ委員會ヲ開會致シマス、審議ニ入りマスルニ先立チマシテ、私ガラシテ一應審議ノ參考ニナルニ點ニ付キマシテ、政府當局ニ此ノ際伺ツテ置キタイト思ヒマスガ、ソレハ此ノ衆議院提出ノ此ノ地方競馬法案ニ對シマシテ政府ハ之ヲドウ云フヤウニ御考ニナツテ居ラレマスカ、詰リ御同意デアルカ、ドウデアアルカト云フコトヲ、實ハ本會議テ御尋ネシタイト思ヒマシタケレドモ、農林當局ガオイデニナツテ居リマセヌデアツクノデ、先ヅ此ノ委員會ノ劈頭ニ於テ其ノ點ヲ一ツ

御尋ネシタイト思ヒマス、第二ニハ此ノ法案ヲ拜見致シマスルト、第八條ニ優勝馬票ノ發賣ヲ認メテ一口金十圓以下トナツテ居リマスシ、尙第十條ニ優勝馬票ノ的中者ニ對シテ拂戻金ハ百倍以内ヲ認メテ居ラレマスガ、是ト現在行ハレテ居リマス競馬法ノ勝馬投票券ノ是等ク點ト比較致シテ見マスト、競馬法ノ方ハ勝馬投票券ノ發賣ノ枚數制限モアリマスシ、拂戻ノ金額等ニ付キマシテモ、制限ニ於キマシテモ少額ニナツテ居リマスノデ、是ガ行ハレマス

ト其ノ二ツノ競馬ノ間ニ一致シナイヤウナ點ガ出來ルト思ヒマス、是等ノ點ニ付キマシテ、政府ハドウ云フヤウニ御考ニナツテ居リマスカ、此ノ二點ヲ此ノ機會ニ御尋ネシタイト思ヒマス

### ○政府委員(大石倫治君) 私ハ農林政務次官デアリマス、大臣ハ本日農地調整法、其ノ他ノ事情ニ依ツテ衆議院ニ出席ヲ致シテ居リマスノデ、私ガ代ツテ出席シテ御答ヲ申上ゲマス、只今委員長ヨリノ御尋ノ第一點、政府ハ此ノ議院提出ノ法律案ニ對スル態度ハ如何ナルモノデアアルカト云フ御話デアリマスガ、政府ニ於キマシテハ、曩ニ此ノ地方競馬規則ノ廢止セラレマシタ後、總動員法ノ發動ニ基キマスル法律ニ依リマシテ、地方競馬ト等シキ鍛鍊競走ト云フモノヲ致シテ居リマシタ、總動員法ノ關係ニ依リマシテ此ノ法律ガ廢止セラレマシタノデ、其ノ後地方競馬ニ對スル政府ノ提案ヲ要求スル民間カラノ切望モアリマシテ考慮致シテ居リマシタケレドモ、政府ト致シマシテハ

色々ノ都合カラ提案スルニ至ラナカツタノデアリマス、ソレヲ議院ヨリ提出セラレルコトニナリマシタ、此ノ案ニ對シマシテ政府ト致シマシテハ、同意致シテ居リマスノデ、此ノ法律ノ一日モ速カニ成立セムコトヲ希望シテ居ル次第デアリマス、ト申シマスノハ、此ノ地方競馬關係ノ立法的ノ根據ガナクナリマシタ今日ニ於キマシテ、昨年來、殊ニ最近ニ至リマシテハ、各地ニ何等ノ法的根據ノナキ地方競馬ガ續々ト實施セラレテ居リマス、ソレガ地方長官ノ許可ト云フ建前デ行ハレテ居リマス、東海道、關東殊ニ北海道其ノ他ノ色々ノ地方ニ於テ行ハレテ居リマスガ、相當ノ買上ガゴザイマスルガ、是等ノ國トシテノ本當ノ取締ノ方法モゴザイマセヌ、地方長官ハ認可シ放シデアリマシテ、地方的取締ヲ致シテ居ルノデアリマスルガ、從ツテ是等ノ收入、獲得ヲシマシタ利益金ノ費途ニ付キマシテモ、或ハ馬車トカ、社會事業トカト云フヤウナ方面ニ使ハレテモ居リマセズ、又公式ノ法律ニ依リマスル場合ニハ、國庫收入ヲ得ル課稅モ出來マスルガ、ソレ等モ出來マセヌト云フヤウナ、誠ニ取締上、又此ノ種ノ仕事ノ弊害ガ認メラレテ居リマセヌ、仍テ同法案ノ速カナル成立施行ニ依リマシテ、斯様ナ根柢ナキ競馬ノ中止ヲ致シ、法律ニ依ル所ノ競馬ヲ明期ニ施行サシタイ、斯様ニ考ヘテ居ルノデアリマス、第二點ノ第八條、第十條即チ馬券ノ枚數ニ關スルコトデゴザイマスルガ、此ノ地方競馬法ニハ枚數制限ヲ認

メテ居リマセヌ、又優勝馬ノ配當金ニ付キマシテモ百倍以内ノ配當ヲ致スト云フ建前デゴザイマス、現在競馬法即チ公認競馬ニ於キマシテハ、一人一枚ト云フ制限ヲ致シテ居リ、配當ニ於キマシテハ十倍ヲ超エルコトヲ得ズト云フ制限ヲ加ヘテ居ルノデアリマスガ、地方競馬法ガ成立施行ノ際ニ於キマシテハ、現在ノ競馬法ト其ノ鈞合ガ取レマセヌノデ、政府ト致シマシテハ適當ナ時期ニ競馬法ノ改正ヲ致サネバナラヌト考ヘテ居ツタノデアリマス、又若シ議院ガ自發的ニ地方競馬法ノ附則ニ於テ直シ得ルナラバ、ソレデモ宜カラウト考ヘタノデアリマス

ガ、議院側ニ於キマシテハ其ノ修正ノ意見ガナイヤウデアリマスカラ、斯クテハ近ク開催ヲ見マスル公認競馬ト地方競馬トノ鈞合セ上、公認競馬ガ不況ニ陥ル處ガゴザイマスルカラ、政府ト致シマシテハ、當臨時議會ニ其ノ改正案ヲ提出致ス準備ヲ今致シテ居ル次第デアリマス、此ノ枚數制限撤廢ト課稅制限ノ撤廢、又配當ハ地方競馬ト同様ノ百倍ヲ超エルコトヲ得ナイト云フ關係、尙前則ト上ニ於キマシテモ地方競馬等ノ鈞合ノ取レマスヤウニ改正ヲ致シタイト存ジテ居リマス、尤モ競馬法ニ付キマシテハ、他ニ時局ニ關シテ改正スベキ點ナシトハ申セマセヌケレドモ、先ヅ差當ツテノ地方競馬法トノ餘リ距離ヲナイヤウナ鈞合ノ取レルダケ應急改正ヲ致シタイ積リテ審議中デゴザイマス、尙チヨツト此ノ際申上ゲテ置キタイコトハ、政府ト致シマシテハ

此ノ地方競馬法ノ原案ニ對シテ、第一條ニ馬券振興ト云フコトガゴザイマスカラ、之ヲ畜産振興ト云フ風ニ修正ガ出來ルコトヲ望ムノデアリマスガ、衆議院ニ於キマシテハ原案通りニ通りマシタ、ソレハ事情ヲ能ク見聞致シマスルト、此ノ開催箇所數ガ前ニアリマシタ鍛鍊競走ヲ認メテ居リマシタ當時ノ箇所數ヲ限定致シタノデアリマシテ、北海道三箇所、他ノ都道府縣ハ各一箇所ト致シテ居リマシタ、處ガ猛烈ナル箇所ノ增加希望ガアリ運動ガゴザイマシテ、ナカノ衆議院ニ於キマシテモ是等ノ問題ガ取扱ヒニクイヤウナ狀態ニ迄陥ツタノデアリマス、デソレ等ノ修正ヲ致セバ、此ノ目的ノ修正ヲ致スト同時ニ全般ノ修正ヲ致スト云フコトニナリマスルト、非常ナ弊害ヲ助長スル處ガアルト云フノ原案ヲ通シマシタ、併シ政府ト致シマシテハ、強ヒテ馬車ノ振興ヲ畜産振興ト必ズ直サナケレバナラナイト云フ程ノ主張ハ持つテ居リマセヌ、御參考迄ニ申上ゲテ置キマス

### ○侯爵四條隆徳君 ちヨツト伺ヒタイ

ノデゴザイマスガ、此ノ際戦後行ラユル社會施設ガ戰爭中、戦前ト云フモノカラ一新シテ切換ヘガアル、無論我が國ノ馬産ガ軍馬要求デ一本建ニナツテ居ツタ、サウ云フコトハ當然茲ニ大變革ヲ來スベキ時期デアルト考ヘルノデアリマス、ソレニ付キマシテ從來競馬竝ニ之ニ關スル法案ガ提出サレル時ニハ、必ズ我が國ノ馬政計畫ガ先ヅ發表サレ、然ル後ニ馬ノ改良トシテ公認競

馬、且之ガ補助機關デアルトシテ地方競馬ガ檢討サレテ居ツタ、民間側ノ要望デ地方競馬ガ提出サレタ、ソレニ依ツテドウモ刺戟サレテ公認競馬モ改正ヲ見ルト云フ風ニ一手進レテ居ルヤウナ感ガアル、只今ノ御説明ニ於キマシテモソレガ窺ハレル、シテ見マスルト、我が國ノ馬政計畫モ或ハ確然トシタモノガ立ツテ居ラナイノデヤナイカト云フ疑ガ茲ニ起ル、凡ソ是等ノ馬ノ改良機關ヲ審議スルニ當リマシテハ、先ヅ以テ戰後ノ我が國ノ馬政計畫ノ確立ト云フコトガ當然行ハレナケレバナラナイ、之ニ關シマシテ新馬政計畫既ニ樹立シテ居リマスレバ之ヲ御發表願ヒタイ、更ニ是ガマダ變更サレテ居ラヌト云フコトデアレバ色々御事情モアルト思ヒマスガ、サウ云フ點ニ付テハ、應御説明ヲ願ヒタイト思ヒマス

○政府委員(大石倫治君) 只今四條侯爵カラノ御尋ネデゴザイマスガ、誠ニ御説御尤モ存ジマス、戰爭中ニ於キマシテハ、軍馬中心主義ノ建前ニ於ケル馬産ノ方針ト云フモノガ立ツテ居リマシタ、御承知ノ通り日露戰爭直後ニ於キマシテ、明治天皇ノ深キ御思召ニ依リ、第一期馬政計畫ガ三十年間ノ期間ヲ以テ樹立セラレマシタ、其ノ第一期ハ終リ、更ニ第二期計畫ヲ立テマシテ、其ノ實行ニ入りマセヌ内ニ日華事變ガゴザイマシタガ、日華事變ノ色々ナ軍隊ノ作戰其ノ他ノ關係カラ第二期馬政計畫ノ實施後間モナク之ヲ變更セザルヲ得ナイヤウナ状態ニナリマシテ、從來軍隊ニ於ケル速度ヲ尊ビマシタ騎兵ハ速度ハ必要デナク、却テ馬ノナカク歩兵デアルトカ、其ノ他ノ部隊ニ澤山ノ馬ガ入ッテ參ル、駄馬、鞍馬ト云フヤウナモノガ、最モ重要視セ

ラレルコトニナリマシタガ爲ニ、之ニ伴フ計畫ヲ立テルト云フヤウナコトニナリマシテ、ソレニ進ンデ居ツタノデアリマス、戰爭ノ終局ト共ニ是等ノ軍事關係ノ馬ノ要求ガナクナリマシテ、專ラ今後ノ馬ハ産業馬ニ適當ナルモノヲ澤山生産ヲ致シマシテ、國內ニソレヲ繁養スルト云フコトニ依リマシテ食糧ノ増産確保モ出來得ルト信ジテ居リマス、從ツテ新ナル馬政計畫ヲ立テネバナラヌ時期ニ遭遇致シテ居リマスルコトハ御説ノ通りデゴザイマス、併シ現在ノ政府ニ於キマシテハ其ノ研究、檢討ヲ致シテ居リマシテ、マダ具體的ニ茲ニ御説明ヲ申上ゲマスルダケノ計畫ハ立ツテ居リマセヌ、唯政府ト致シマシテハ、獨リ馬ニ拘ラズ、他ノ畜産ト睨ミ合セ綜合致シマシタ關係モ考ヘネバナラヌノデアリマスルシ、將來ノ國內ニ於ケル耕地面積、人口ノ配置、其ノ他主要畜産ノ頭數等詳細ナル調査ノ必要モアルノデアリマス、デ當議會ニ農林省ト致シマシテハ、農業協同組合法案ヲ出シマシテ、此ノ畜産全體ノ團體ヲ立テ方ノ考ヘタノデアリマスルケレドモ、只今ノ處、協同組合法案ハ今期議會ニハ出サナイト云フ考ヘ方ニナリマシタノデ、從ツテ具體的ニ茲ニ御満足ヲ得ルヤウナ計畫ヲ申上ゲル機會ニハ至ツテ居リマセヌ、併シ近キ將來ニ於キマシテ、是等ニ對スル所ノ具體的方策ヲ定メテ申上ゲル機會ガアルト存ジテ居リマス

○侯爵四條隆德君 只今伺ヒマシタガ、我が國ノ新生日本トシテ馬政計畫モマダ出來テ居ラス、斯カル状態ニ於キマシテ、根本ガナイノニ此ノ末梢ヲ必要ガアルカナイカト云フコトヲ檢討スルコトハ既ニ極メテ困難ト考ヘルカ

第デアリマス、各種ノ産業ガ新計畫ノ下ニ進ンデ居ルノニ、ドウモ此ノヤウナ根本問題ガハツキリシテ居ナイト云フコトハチヨツト了解ニ苦シムコトナシデアリマス、特ニ競馬ノコト、馬ノ改良殖種ト云フヤウナ問題ハ孰レモ馬政計畫、畜産計畫ト云フヤウナ根本問題ガ決定シタ後デアレバ、是非ヲ論ズルコトガ出來ヌ状態ト考ヘルノデアリマスガ、此ノ點ニ付キマシテ追ツテ計畫ヲスルト云フヤウナ今御話ナノデスガ、又左様ナ場合ニハ競馬法ガ變ツテ來ヤセヌガ、現在之ヲ定ムルノニハ少シ時期ガ早イノデアツテ、且現ニ行ハレテ居ル各地方ノ競馬ガアルト云フ御話デシタガ、斯カルモノハ何モ此ノ地方競馬法ト云フモノノ結果ヲ待タナクテモ差止メルコトハ出來ルシ、仲裁スルコトモ出來ルト云フ風ニ考ヘルノデアリマスガ、此ノ法案ノ結果ヲ待タナケレバ、現在行ツテ居ル各地方ノ競馬ハ手ヲ著ケルコトガ出來ナイノデスカ、此ノ點チヨツト伺ヒタイ

○政府委員(大石倫治君) 御答へ申上ゲマス、現在各地ニ行ハレテ居リマスルモノハ差止メルコトハ出來ナイトハ申シマセヌ、又政府ノ取締リ方面ノ力ニ依ツテ差止メルコトハ出來ルカモ知レマセヌ、又出來ルト存ジマス、併シマア之ヲ、情勢ヲ觀察致シマシテ、サウ無理ニ止メルト云フコトハ馬産獎勵上カラ申シマシテ如何カト存ズルノデアリマス、申上ゲル迄モナク公認競馬ハ其ノ競馬ノ目的ガ地方競馬ト違ヒマシテ、地方競馬ハ公認競馬ト非常ニ違ヒマスルノハ、直接産業馬ノ能力、或ハ素質等、農村ニ於テ直接生産ヲシ、或ハ之ヲ飼育致シテ居リマスル馬ヲ、職業的ニ瓦

ラセナイ程度ニ於テ之ヲ競馬ニ出シテ行クノデアリマスガ、此ノコトハ直接ニ馬ノ改良及ビ生産ノ獎勵ニ資スルト存ズルバカリデナク、現在ノ日本ニ於キマスル馬ノ數ハドウシテモ妙クトモ百五十萬頭ヲ繁養致サナケレバナラナイト存ジテ居リマス、殊ニ今後數年間ニ百六十萬頭歩ノ耕地ヲ擴張致スノデアリマスカラ、之ニ對シテモ數千萬頭ノ大動物ノ必要ト致スノデアリマス、同ジ大動物デゴザイマシテモ、馬イ地方トゴザイマスガ、出來得レバ馬ヲ以テ、産業ノ方面、又輸送上ノ有力ナル補助機關デアリマスル輓曳用ト致シマシテハ、適ニ牛ニ勝ツテ居ルコトダケハ御認識ノアルコトト存ズルノデアリマス、然ルニ現在我が國ニ於ケル馬ノ頭數ハ非常ニ減ツテ居リマシテ、百二十萬頭ニモ達シナイノデアリマス、尙今後五十萬頭モ七十萬頭モ之ヲ増殖致シテ參ラネバナラナイ時ニ際會フ致シテ居リマシテ、是等ノ馬ヲ增加致シマスルコトハ、唯産業馬、産業馬ト申シマシテモ、飼料ノ乏シト云フヤウナ場合デ、政府ニ於キマシテハ從來生産育成ノ上ニ助成ヲ致シテ居リマシタ數百萬圓ノ豫算モ全然ナクナツテシマツタノデアリマス、從ツテ地方ニ於ケル馬事ニ關係ヲ致シマスル獎勵指導ノ任ニ當ル團體ノ所謂財源ノ上ニ、又獎勵上ノ上ニモ非常ナ打撃ヲ、影響ヲ蒙ツテ居ルノデアリマス、此ノ地方競馬ト云フモノハ一面直接馬ノ改良振興ノ働キヲナスバカリデナク、間接ニ於キマシテハ經濟的ニモ競馬ノ利益ヲ中央團體ヲ通ジ、若シハ直接其ノ團體ノ財源ニ當テマシテ、馬産ノ改良増殖ニ資スルコトガ甚大デアルト考ヘル

○政府委員(大石倫治君) 公認競馬現在ノモノハ御承知ノ如ク、主ナル種類ハ「サラブレッド」、之ニ次グモノハ「アラブ」系ノモノデアリマス、嘗テ繁養等中間種系ノモノモゴザイマシタガ、地

次第デアリマス、斯様ナ關係カラ、御承知ノ通り只今ハ過渡期デゴザイマシテ、ドウモ既ニ馬産計畫モ立テナケレバナラヌ管デアリマスルケレドモ、目下其ノ調査研究途上ニゴザイマスルモノデ、ハツキリ申上ゲ得ナイコトハ甚ダ申譯ノナイコトデアリマス、併シ假令馬産計畫ガ確立致シマシテモ、此ノ法律ノ上ニ定メラレマシタ地方競馬ノ根本方針ニハ大ナル變化ガナカラウト存ジマス、唯所謂地方競馬ニ走ラレル所ノ色々ナ番組デアルトカ、或ハサウ云フヤウナ部分的ノ改正ノ必要ハ起ルコトト存ジマスルケレドモ、根本ノ立テ方ニ於キマシテハ現行法ガ決シテ覆ヘサレルコトハナイ、斯様ニ御承知ヲ願ヒタイノデアリマス

○侯爵四條隆德君 只今ノ御説明ニ依リマス、地方競馬ハ、馬ノ改良ト云フヨリ寧ろ増殖其ノ他經濟上ノ方面デマア重要デアルト云フヤウナ御話デアリマスガ、公認競馬ハ今迄本院ニ於テ檢討サレマシタ所モ、馬ノ改良、特ニ軍馬ノ改良ト云フコトガ一方ニアリマシテ、近ク公認競馬ヲ改正ナサル御話モアリマシタガ、左様ナ際ニハドウシテモ今後ノ馬産計畫ト云フモノガ茲ニ呈示サレナケレバ、公認競馬ハ到底ソレヲ檢討スルコトガ無理デアナイカト云フ風ニ考ヘルノデアリマスガ、公認競馬ヲ改正ナサルヤウナ際ニハ、日本ノ馬産計畫ヲ呈示サレルヤウナ御考ガアリマセウカ、此ノ點チヨツト伺ヒタイノデスガ……

方競馬ハ中間種及ビ重種ト云フヤウナ  
産業馬、輓曳ニ供スルヤウナ農耕馬、  
輓曳馬ト云フヤウナモノヲ主トシテ競  
馬ニ出場サセ、又其ノ獎勵ヲ致スコト  
ニ致シタイト存ジマス、公認競馬ハ所  
謂輕種、我が國ノ馬ノ原種ト稱スベ  
キモノヲ作ル建前ニ於キマシテ此ノ競  
馬ノ馬産ノ改良ノ目的ヲ達シテ行キタ  
イ、斯ウ云フ公認競馬ト地方競馬トハ  
自ラ其ノ任務ト致ス所ガ違ヒガアルコ  
トヲ御承知戴キタイト思フノデアリマ  
ス、將來馬産計畫ヲ立テ、又競馬法ノ  
改正ヲ要スル場合ニ於キマシテモ、是  
等ノ點ニ重點ヲ置イテ參リタイト思フ  
テ居リマス

○侯爵四條隆德君 今一點伺ヒタイノ  
デスガ、本案ニモ馬券ノ發賣ト云フコ  
トガ附テ居リマス、從來競馬法ノ委員  
會ノ速記録ヲ見マシテモ、馬券ノ發賣  
ト云フコトニ付キマシテ多々議論ガア  
ル譯デアリマス、當ニ問題ニナルノハ  
此ノ一點ナリデスガ、其ノ時ノ速記録  
ヲ見マスルト、馬ノ生産ガ、從來社會  
上ノ色々々々非難モアルガ、軍馬ト云フコ  
トニ依ツテノミ、是ガ支持サレタコト  
ハ毎度ノ委員會ノ速記録ニ殘ツテ居  
ル、今回實際問題ニ於テ只今ノ御話ノ  
ヤウニ、軍馬生産ト云フ目的ガナクナ  
リ、最モ馬券ヲ支持シテ居ツタ所ノ條  
件ガ一ツ取テ取テアリマス、其ノ今  
日ニ於テ從來ヨリモ餘計ニ馬券ノ枚數  
モ賣ル、配當モ餘計ニスルト云フコト  
デアレバ、當時ニ於テハ軍馬ト云フ  
モノハ非常ニ必要性ガアツタモノデア  
リマスガ、現在ヨリ以上ニ馬ノ必要性  
ガアレバ納得ノ行ク話ナンデスガ、此  
ノ點チヨット了解出來ナイ點ニ種々ア  
ルノデアリマス、細カイ點ハ又追ツテ  
御質問申上ゲタイト思ヒマスガ、此ノ

根本概念ニ付テ御説明願へレバ幸ト思  
ヒマス

○政府委員(大石倫治君) 御尤モノ御  
尋デゴザイマス、軍隊ノアリマスル際  
ニ軍馬ノ要求ハ相當強カツタノデゴザ  
イマスガ、併シ日本全體ノ生産頭數ト  
日本全體ニ保有ノ致シテ居リマスル馬  
ノ頭數カラ申シマスレバ、軍隊ノ要求  
セラレマスル頭數ハ僅カニ其ノ幾割ニ  
シカ過ギナカツタノデゴザイマス、ケ  
レドモ軍ノ要求ヲ中心ト致シテ獎勵方  
針ヲ採ツテ居リマシタル結果ハ、所謂  
馬ノ高サデアルトカ、或ハ素質デア  
ルトカ、能力デアルトカト云フヤウナ  
モノハ、軍隊ノ要求スル點ヲ大體ノ目標  
トシテ作リマシタルノデゴザイマシテ、  
現在日本國內ニ散布シテ居リマスル馬  
ノ大部分ハ、背ノ高サガ農耕馬トシテ  
ハ高過ギル處ガゴザイマス、ソレデ今  
後ノ農耕馬ト致シマシテハ、相當是等  
ノ改良ヲ必要ト致シテ居ルノデ、ドウ  
云フ馬トドウ云フ馬ヲ付合セマシタ  
ナラバドノ馬ガ出來ルカト云フヤウ  
ナコトノ大體ノ試驗ノ關係ハ分ツテ  
ハ居リマスル體レドモ、矢張り粗食ニ  
堪へ、又農民ノ使ヒ易イ、或ハ病氣ニ罹  
ラナイ、背ガ農民ノ背ノ高サト云フヤウ  
ナモノトノ釣合ヲ圖ツタヤウナ馬ヲ作  
ルノデアリマス、其ノ一面今度ハ輓馬  
デアリマシテ、輓曳用ノ馬デアリマス  
レバ、是ハ又太ク逞シイ大キイ  
馬デナケレバナラヌト云フヤウ  
ナコトニモナルノデアリマシテ、  
是等ノ關係ニ付キマシテ今後ノ馬政方  
針ト云フモノモ定メラレネバナラヌノ  
デゴザイマシテ、從ツテ地方競馬ハ斯  
ウ云フヤウナ點ニ付キマシテモ出場馬  
ニ注意ヲ拂ヒ、能力、素質等ノ實際ニ  
示シテ參リタイ、モウ一ツ競馬ノ目標

ト致シマスルモノハ、今迄馬券ノ制限  
ヲ致シテ居リマシテ、一人一枚、從ツ  
テ配當モ十倍以内、斯ウ云フコトニナ  
ツテ居リマシタガ、戰爭ニ於ケル幾多  
ノ債券ノ募集、或ハ公債ノ募集等非常  
ニ變化ガゴザイマシテ、一人一枚ト  
カ、十倍以内トカ云フヤウナ程度ニ於  
キマシテハ、到底國民ノ嗜好ニ投ズル  
コトモ出來ズ、興味ヲ惹カナイト云フ  
コトニナリマス、却テ競馬ヲ開催シ  
テ經濟的ニ打擊ヲ受ケテ、馬産獎勵上  
ノ障礙トナラヌトモ限ラヌト思フノデ  
アリマス、時局ノ推移ニ相應致シマシ  
テ、適當ナル枚數、適當ナル配當ガ行  
ハレルノデハナイカト思フノデアリマ  
ス、無制限ト申シマシテモ、自ラ需要  
者ノ方ニ於キマシテハ制限ガゴザイマ  
スルシ、百倍ト申シマシテモ、今迄各地  
ニ於テ「インフレ」景氣ノ場合實行致シ  
タ成績ヲ見マシテモ、百倍ノ配當ニナ  
ツタモノハナイノデアリマス、大抵二  
三十倍デ、五十倍ニモナルコトハゴザ  
イマセデ、デアリマスカラ假令十倍  
モノヲ百倍ト致シマシテモ、非常ナモ  
ノニハナラヌデハナカラウカト考へラ  
レテ居リマス

○侯爵四條隆德君 私が伺フタノハ、  
戰爭終結前途ハ、此ノ競馬法改正ニ際  
シマシテハ馬券ガイツモ問題ニナツタ  
ノデアリマスガ、是デハ國防上兩利カ  
ラト云フノデ、其ノ結果、馬票ヲ賣ル  
コトニナツテ居ルノデアリマス、國防  
上困ラナケレバドウナルカト云フコト  
ガ又茲ニ問題ニナルコトナラヌデ、其ノ  
時ノ話カラハ、率直ニ申セバ、國防上  
馬ガ要ナナイト云フ時期ニナレバ一應  
考へ直サナクチャナラヌト云フ風ニ取  
レルノデスガ、現在實業ヲ賣ツテ居ル  
世ノ中デ、馬票ヲ賣ルコトガ全然イカ

ヌト私ハ考へル譯デハナイノデスケレ  
ドモ、實際問題ニ於テ、當時ノ軍馬ト  
云フモノハモウ如何ナル非難ガアツテ  
モ之ヲ是非共作ラニヤナラヌト云フノ  
デ馬票ヲ賣ルコトニナツタノデアリマ  
ス、其ノ時ト今ノ狀態ガ餘リニモ違フ  
モノデスカラ、私ハ斯ウ云フ質問ヲ申  
上ゲタヤウナ譯デ、實際問題ニ於テ、  
當時國防上必要デアツタヨリ以上ニ馬  
ノ重要性ガアレバ、茲ニ馬票ヲ賣ルト  
云フコトモ成立ツ譯デアリマスガ、實  
際ニ獎勵シヨウト思へバ、何モ馬ダケ  
デナクテ、石炭ヲ掘ルンデモナラヌ  
モ、獎勵金ト云フ方法ガアルノデ、特  
ニ今ハ馬票ヲ賣ツテ獎勵シナケレバナ  
ラヌト云フ何人ニモ納得ノ行ク話ヲ  
伺へレバ非常ニ幸ダト思フタノデアリ  
マス、ソレニ關シテ御意見アリマスガ

○政府委員(大石倫治君) 率直ナル御  
尋デゴザイマス、餘リ諄クナリマス  
御迷惑デアルト存ジマシテ差控へタノ  
デアリマスガ、先刻申上ゲマシタ通  
リ日本ノ此ノ耕地ヲ完全ニ耕シテ、サ  
ウシテ不足ナル食糧ノ増産ヲナサシム  
ルト致シマスルニハ、ドウシテモ馬ノ  
必要ヲ私共ハ痛切ニ感ジテ居ルノデゴ  
ザイマス、先刻モ同ジ大動物デアリマ  
シテモ、牛ト馬ノ關係ガ違フト申上ゲ  
マシタコトハ、東北、北信、北海道ト云  
フ數倉方面ニ於キマシテ一番食糧ノ増  
産ヲ致シマスルニハ、缺クベカラザルモ  
ノハ肥料デアゴザイマス、其ノ肥料ハ硫  
安ヲ初メ金肥等ヲ以テ致シマシテモ、  
現在ニ於テハ需要ノ數分ノ一モ生産ハ  
ゴザイマセヌノデ、肥料ノ不足ハ所謂  
收穫ノ不足ヲ來シテ居ルノデアリマ  
ス、之ヲ確保致シマスコトハ、ドウシ  
テモ堆肥ニ俟タナケレバナラヌノデ  
アリマシテ、堆肥ヲ生産致シマスル一

番ノ生産力ヲ持チ、其ノ肥効力ヲ多ク  
持つテ居リマスルノハ馬ノ堆肥肥デ  
アルコトハ御承知ノ通りデアゴザイマ  
ス、從ツテ此ノ東北、北海道、北信方  
面ノ如キ氣温ノ低い地方ニ於キマシテ  
ハ早植エヲ致シテ參ル、水田ニ牛ノ堆  
肥ヲ施シマスルコトハ、馬ノ堆肥肥  
ト牛ノ堆肥トハ、五度以上ノ保溫力  
ノ差ガゴザイマスルカラ、丁度東  
北、北海道、或ハ北信ト云フヤウノ氣  
温ノ低い地方ニ於テ田植ヲ致シマシテ  
丁度分蘖ニナル頃、此ノ保溫力ノ關係  
ニ依ツテ氣温ガ低い時ニ分蘖ヲシテ施  
肥効力ヲ生ジテ參ツテ居ルノデゴザイ  
マス、若シ是ガ牛デアツタト致シマス  
ルト、温度ノ低い堆肥肥ニ於キマシテ  
ハ發酵期、分解期ガ遅レマシテ、本當  
ニ糞ヲ肥シテ結實サセルト云フ間ニ合  
ヒマセヌノデアゴザイマス、斯ウ云フヤ  
ウナ關係モゴザイマスルノデ、牛ノ肥  
料ノ生産ト馬ノ肥料ノ生産トハ二倍半  
モ三倍モ違フ、況ンヤ他ノ小動物ニ於  
キマシテハナカク、追付カヌノデア  
リマス、假令金肥ガ硫酸、石灰等素ニ  
致シマシテモ、豫定ノ數ガ生産セラレ  
マシテ悉ク金肥ニ頼ルト云フ時期ガ  
アリマスルナラバ、日本ノ農業界ハ是  
ガ爲ニ非常ニ破滅ニ陥ルト私共ハ考へ  
テ居ルノデアリマス、嘗ツテ畜産ガ農  
村ニ非常ニ減退ヲ致シマシタ時ニ於テハ、一  
時ハ收穫ノ増大ヲ見タノデアリマス  
レドモ、是ハ數年ナラヌデテ土壤ガ非  
常ニ瘠セ衰へテ參リマシテ、之ヲ回復  
スルコトガ出來ナイノデアリマス、デ  
金肥ノ一方ニ依ルト云フコトハ非常ニ農  
村經營ノ上ニ危險ヲ持つテ居リマスル  
カラ、永久ニ日本ニ於キマシテハ此ノ  
堆肥ト云フモノヲ用ヒテ行カナケレバ

○侯爵四條隆德君 今一點伺ヒタイノ  
デスガ、本案ニモ馬券ノ發賣ト云フコ  
トガ附テ居リマス、從來競馬法ノ委員  
會ノ速記録ヲ見マシテモ、馬券ノ發賣  
ト云フコトニ付キマシテ多々議論ガア  
ル譯デアリマス、當ニ問題ニナルノハ  
此ノ一點ナリデスガ、其ノ時ノ速記録  
ヲ見マスルト、馬ノ生産ガ、從來社會  
上ノ色々々々非難モアルガ、軍馬ト云フコ  
トニ依ツテノミ、是ガ支持サレタコト  
ハ毎度ノ委員會ノ速記録ニ殘ツテ居  
ル、今回實際問題ニ於テ只今ノ御話ノ  
ヤウニ、軍馬生産ト云フ目的ガナクナ  
リ、最モ馬券ヲ支持シテ居ツタ所ノ條  
件ガ一ツ取テ取テアリマス、其ノ今  
日ニ於テ從來ヨリモ餘計ニ馬券ノ枚數  
モ賣ル、配當モ餘計ニスルト云フコト  
デアレバ、當時ニ於テハ軍馬ト云フ  
モノハ非常ニ必要性ガアツタモノデア  
リマスガ、現在ヨリ以上ニ馬ノ必要性  
ガアレバ納得ノ行ク話ナンデスガ、此  
ノ點チヨット了解出來ナイ點ニ種々ア  
ルノデアリマス、細カイ點ハ又追ツテ  
御質問申上ゲタイト思ヒマスガ、此ノ

ナラヌト云フ考へ方ヲ持ツテ居ルノデア  
アリマシテ、其ノ堆肥ヲ供給致シマス  
ル主ナルモノガ馬デア、其ノ肥効力  
モ只今申上ゲマシヤウナ地域關係等  
モゴザイマス、斯様ナ次第デアリマス  
ルカラ、食糧ノ生産力ヲ申シマシテモ、  
其ノ不足ヲ補ヒマスル日本ニ於キマシ  
テハ、ドウシテモ軍隊ガ必要デアリ  
カ、國防上ドウシテモ問題デアリ  
シニ、日本ソレ自身ノ國民生活ノ上ニ  
馬ノ必要ハ御認メテ下サレテ居ルコト  
ト存ズルノデアリマス、其ノ馬ガ年々  
減退ヲ致ス傾向ヲ持ツテ居リマス、今  
迄政府ハ多額ノ補助助成ヲ致シテ生産  
或ハ飼育ノ獎勵ヲ致シテ居リマシタモ  
ノガ、御承知ノ通り終戦後其ノ筋ノ註  
文モアリ、全然此ノ助成費ト云フモノ  
ハ削ラレマシテ、昭和二十一年度ニ於  
キマシテハ、一文モナクナツタノデア  
リマスソレデアリマスルカラ、此ノ  
馬ノ生産ヲ殖シテ行ク、素質ヲ改メテ  
行ク、ソレニハ矢張り種牝馬デアルト  
カ、種牝馬デアルトカ云フヤウナ基礎  
的ナモノモ改メナケレバナリマセズ、  
ナカノ容易ナ業デアリナイノデアリマ  
ス、一面直接獎勵ノ用ニ供スルト共  
ニ、他面經濟的助成ノ資源タラシメル  
上ニ於キマシテ地方競馬、又公認競馬  
ト云フモノノ必要ヲ政府ト致シテ認メ  
テ居ルノデアリマシテ、此ノ觀點カラ  
致シテマシ現在ノ馬ハ假令一割二割ノ  
生産増加ヲ致シマシテモ、ドウモ此處  
デ申上ゲテハ如何カト存ジマスガ、屠  
殺數ガ多クナツテ参リマシテ、ナカ  
ナカ是ガ防ぎ切レナクナツテ参リマシ  
タ、所謂食糧ノ不足ト肉ノ値段ノ關係  
カラ、今迄ハ廢馬、老馬ト云フヤウナ  
モノノミガ屠殺ニ向ケラレテ居リマシ  
タ馬モ、何トナク相當ノ馬ガ屠殺ニ向

ケラレルト云フコトハ、誠ニ殘念ナコ  
トデアリマスルケレドモ、政府ト致  
シテ是ガ防退ヲ致スノデアリマスル  
ガ、ナカノソレヲ根本的ニ防退スル  
コトガ出来マセズ、從ツテ獎勵上餘程  
ノ此處ニ手段ヲ講ズル必要ガアルト、  
斯様ニ考ヘテ居ル次第デアリマス  
○侯爵四條隆徳君 最後ニモウ一點伺  
ヒタイノデスガ、今迄ノ競馬ノ實上ノ  
金ヲ運用スル問題デアリマスガ、是ハ  
馬ニノミ使フコトガ常識ニナツ  
テ居ツタノデアリマス、先程或ハ修正  
シタイト云フヤウナ御希望ノ點モアリ  
マシタガ、畜産全般ニ互ツテ之ヲ助成  
スルヤウナ御考モ伺ツタノデスガ、是  
ハ競馬トシテ非常ニ目的ヲ變更セラレ  
ハヤウナ風ニ取レルノデアリマスガ、  
是非トモ畜産部門全般ニ互ツテ此ノ費  
用ヲ使ツタ方ガ宜シト云フ御考デア  
カ、先程修正シタイト云フヤウナ御  
希望モアツタノデスガ、此ノ點モウ少  
シ細カイ御説明ヲ願ヒタイ

○政府委員(大石倫治君) 此ノ目的ハ  
強ク要望シテ居ルノデアリマシマス  
ノデ、只今ノ處ハ馬ハ一本ニナツテ居  
リマス、他ノ畜産ト合併致シタ團體モ  
ナイノデアリマスルカラ、一方ハ農業  
會ニ屬シ、一方ハ馬匹組合、或ハ馬匹  
組合聯合會ト云フヤウナ建前デ参ツテ  
居ルノデアリマスガ、將來ハ矢張り畜  
産ト云フモノハ綜合的ニ獎勵シテ計畫  
ヲ立テテ居ルノデアリマス、此ノ地方競  
馬ノ目的ハ馬事ノ振興、馬事ノ増殖、  
是ガ主ナル目的デアリマス、  
其ノ得マシタ財政上、經濟上ノ餘地ガ  
アリマスレバ、馬以外ノ一般畜産ニモ  
獎勵シテ行ク、又獨リ畜産ニ止マラズ  
社會事業ニモ之ヲ支出シテ行クト云フ

ノガ提案者ノ考へ方デアリノデアリマ  
ス、又競馬法ニ於キマシテモ、御承知  
ノ通り主トシテ馬事ニ使ヒマスルモノ  
ハ四分ノ三ヲ下ルコトヲ得ズト云フコ  
トガ現行法ニゴザイマスガ、其ノ四  
分ノ一弱ハ或ハ社會事業ノ方面ニ振  
向ケラレテ居ツタコトモ御承知ノ通り  
デアリマシテ、地方競馬モ矢張り同様  
ノ線ニ沿フテ參ルコトト思フノデアリ  
マス

○委員(西尾忠方君) 御質問ガ  
ナケレババチヨット私カラ政務次官ニ伺  
ヒタイノデス、此ノ法案ハマダ十分拜  
見致シテ居リマセズガ、衆議院ノ委員  
會ノ連記録モマダ參ツテ居リマセズノ  
デ、主トシテドウ云フ方面ニ論議ヲ開  
ハサレタカ、其ノ邊承リタイト思ヒマス  
○政府委員(大石倫治君) 衆議院ニ於  
カレマシテハ極ク簡單ノ質問ガデゴ  
ザイマシタ、唯一日ダケノ質問デ、四  
人カ伺フ方ガアリマシテ、私カラ答辯  
ヲ致シマシテ了承得タケテ終リマシ  
テ、二日ハ自由黨、進歩黨及ビ其ノ  
他ノ政黨カラ代表者ガ出マシテ、單ニ  
原案ニ賛成スルトカ、或ハ極ク簡單ナ  
理由ニ依ツテ原案ニ賛成スルト云フヤ  
ウナ御話デ終リマシテ、彼此ト申上ゲ  
ル程ノ論議ト申スカ、質問應答ハゴザ  
イマセマデ、頗ル平凡ニ過ギテ居リマ  
ス、又本會議ニ於キマシテモ委員長ノ  
報告ニ對シテ討論ヲ用ヒマセマデ、三  
階會ヲ省略致シマシテ即決ニナリマシ  
タ次第デアリマス

○瀧川儀作君 私ハ競馬ノコトハ至ッ  
テ不案内デアリマスガ、先達テ我々ノ  
調査會デ衆議院方面ノ方カラ提案ノ理  
由ヲ詳シク伺ヒマシテ、肥料ノ關係カ  
ラ最も必要ナ提案ダト考ヘテ居リマ

ス、更ニ近頃ヤカマシク言ハレテ居ル  
「インフレーション」ノ問題、食糧ヲ繞  
リマシテ「インフレーション」ガ盛ニナ  
リマシタノハ、一時ノ軍需成金トデモ  
言ヒマスガ、言葉ハ何デスガ、サウ云フ  
方面ノ買占ニ因ルコトノ如クニ宣傳サ  
レテ居リマスケレドモ、多年私共ガ多  
數ノ労働者ヲ使ツテ來マシタ關係、又  
色々ノ團體ニ關係致シマシタ經驗カラ  
見マシテ、戰爭以來労働者ノ賃銀ガ非  
常ニ上リマシテ、其ノ割合ニ食糧ノ不  
足デテ使ヒ所ガアリマセズノデ彼等  
ガ無闇ニ食糧ヲ漁ル、有ラユル方面ニ向  
ツテ無闇ニ金ヲ使フ、彼等ハ貯蓄心ト  
云フモノハナイノデアリマス、ソコデ  
食糧ヲ繞ツタ「インフレーション」ト云  
フモノハ此ノ方面カラ來ル、戰爭前デ  
モ五六百萬人ノ労働者ガ「レヂスター」  
サレテ居ツタノデアリマスガ、戰爭後ニ  
ハ急ニ殖エテ、徵用工ヲ合セテ千萬以  
上ノ労働者トナリ、非常ニ多額ノ賃銀ヲ  
得タノデアリマシタガ、之ヲ濫費スルコ  
トハ非常ニ惜シイコトデアリマス、ソレ  
一ツ吸收シマスル方法ガアレバ、「イン  
フレーション」ハ、餘程防止出來ルデ  
アラウ、此ノコトハ政府當局ニ申上ゲ  
タコトモアリマスガ、ソレ以外ニ地方  
ノ府縣デアリマスガ、或ハ都市ノ財政  
ガ非常ニ窮乏致シテ居リマスカラ、ア  
ノ方面ニモ集ツタ金ヲ使ツテ財政ノ急  
ヲ救フト云フヤウナコトニモナルノデ  
ヤナイカト云フヤウナコトヲ考ヘテ居  
リマス、私ハ一切競馬場内ニ入ツタコ  
トモナイノデアリマス、デアリマスガ  
ラ、此ノ問題ニ對シテ格別「インタ  
レスト」ヲ持ツテ居ル譯デアリマセ  
ヌガ、競馬ヲ經營シテ居ル者ニ成績ヲ  
聴キマシタ結果、労働者ヲ澤山使ツテ  
居リマシタ經驗カラ見マシテ、此ノ方

面ニハ相當競馬ヲ獎勵スル、ト言ツテ  
ハ語弊ガアリマスガ、先ヅ獎勵シマス  
ル必要ガアルノデヤナイカ、斯ウ云フ  
風ニ考ヘテ居リマスガ、政府當局デハ  
其ノ方面ニ付テハ何か御調ニナツタコ  
トガアリマスガ、一應何ツテ置キタイ  
ト思ヒマス

○政府委員(大石倫治君) 只今ノ御尋  
デゴザイマスガ、政府ノ意圖致シテ居  
リマス點モ御指摘ニ合致シテ居ル點ガ  
ゴザイマス、競馬ニ對スル「ファン」ト  
云フモノハ非常ニ多ク且熱烈デゴザイ  
マス、從ツテ現在民間ニ浮動シテ居ル  
所ノ資金ヲ集メルツノ副作用ト致シ  
マシテ、相當效果アルコトヲ信ジテ居  
ルノデアリマス、所謂一言ニシテ申セ  
バ「インフレーション」ヲ防止ノ一翼トシマス  
カ、一助トモナルデアラウト存ジテ居  
リマス、殊ニ公認競馬ガ復活シ、地方  
競馬ガ各道府縣ニ一年四回、六日間短  
ノ程度ヲ以テ最高ノ開催ヲ致シマスレ  
バ、地方ニ於キマシテモ相當ノ浮動資金  
ノ吸收ニモナリマスルシ、又政府ニ於  
キマシテハ之ニ課税スルコトガ出來マ  
スノデ、政府ノ國庫ノ收入ヲ増スコト  
ガ出來ルノデアリマス、又開催者ニ  
於キマシテモ二十乃至二十五ノ控除  
額ヲ持ツテ居リマスルカラ、是等ノ  
モノガ大部分ハ馬車、畜産ノ獎勵費  
ニ向ケラレ、他ノモノハ或ハ社會的ニ  
使用セラレルト云フコトニナルノデゴ  
ザイマス、唯御話ノ都市トカ地方ノ公  
衙ノヤウナモノノ財政救済ノ方法ト致  
シマシテハ、チヨット直チニ之ヲ振向  
ケルト云フヤウナ譯ニハ參ラヌデハナ  
イカト思ヒマス、唯公衙、官衙等ニ於  
テヤラウトシテヤリ兼ネテ居リマスル  
豫算ヲ持タナイヤウナモノハ、例ヘバ  
色々アルト存ジマスガ、或ハ戰災者ノ

救済アルトカ、歸還者ノ救済アルトカ、或ハ色々ナサウシタヤウナ失業救済ノ部面アルトカ、或ハ思想運動デアルトカト云フヤウナモノガアリマズル場合ニハ、是等ノ方面ニ廣イ利益ヲ廻シテ行クコトガ出來ルデアラウト存ズル次第アリマス

○子爵北小路三郎君 先程四條侯爵ノ御質問ニ依リマシテ、競馬ニ依ル賣上金ノ用途デアリマスガ、ソレニ對シテ御話ヲ伺ヒマス、馬事ノ振興、或ハ増殖、サウ云フ方面ガ目的デアツテ、主トシテ其ノ方ニ用途ガ向ケラレルヤウナ御話ヲ伺ツタノデアリマスガ、其ノ時ノ御話ト致シマシテ、社會事業方面ニモ餘リガアレバ多少ハ之ヲ向ケルト云フ御話トゴザイマシタガ、今日終戦後ノ我が國ニ於キマシテ、社會政策ノ上ニモ亦色々ノ問題ガアルト思ヒマスシ、ソレニ連レマシテ社會施設トシマシテモ、世ノ中ガ待ツテ居ルモノガ多分ニアルト思ハレマス、此ノ時ニ於キマシテ政府トシマシテモ、社會事業ニモ多少ハ御向ケニナル、從來モ御向ケニナツテ居ツタト云フ御話デアリマスケレドモ、之ヲモウ少シ積極的ニ御考ニナリマシテ、此ノ際其ノ用途ヲ、二分ノ一ニシテヤルトカ、モット多クヲ社會施設ノ方ニ御當ニナル御考ハアリマセヌデセウカ、ドウデアリマセウカ、私ハ能ク斯ウ云フコトハ知りマセヌケレドモ、外國ニ於テモ「アルゼンチン」或ハ南米方面ニ於テハ相當此ノ賣上金ト云フモノハ社會事業方面ニ振向ケラレテ居ルヤウニ伺ツテ居ルノデアリマスガ、殊ニ今日ノ我が國ニ於キマシテハ、今申上ゲルヤウニ非常ニ社會施設トシテモ俟ツベキモノガ澤山ゴザイマス、斯ウ云フ意味ニ於キ

マシテ、此ノ方面ニモツト此ノ收獲ガ振向ケラレマシタナラバ、競馬其ノモノノ意味モ非常ニ又社會的ニ深クナツテ來ルト云フ風ニ考ヘラレルノデアリマスガ、斯ウ云フ點ニ付キマシテハ如何御考デアリマセウカ、御尋ネ致シタイト思ヒマス

○政府委員(大石倫治君) 御答ヲ申上ゲマスガ、誠ニ御尤モ御尋ネゴザイマシテ、政府ト致シマシテハ出來ルダケサウ云フ社會事業方面ニモ一定額ノ利益金ヲ使ハセタイト考ヘテ居ルノデアリマス、併シ御承知ノ如ク、只今御審議ヲ願ツテ居リマスル地方競馬法ト現在行ハレテ居リマスル競馬法ト二ツノ法律ガ出來テ競馬ヲ行フノデゴザイマシテ、公認競馬ノ建前ト、地方競馬ノ建前トハ自ラ違フ點ガゴザイマスノデ、別々ノ法律ニ依ル必要ヲ認メテ居ルノデゴザイマスガ、現行法ハ「四分ノ三ヲ下ルコトヲ得ズ」ト云フ馬事振興費ニ使フ制限費ヲ以テマシテ、其ノ四分ノ一ハ社會事業ニ使ハレルコトニカツテ居ルノデアリマスガ、地方競馬法ニ於キマシテハ左様ノ制限ヲ致シマセヌノデゴザイマシテ、其ノ利益ノ使ヒ方ニ付キマシテハ、競馬開催ノ認可ニ當リマシテドウ云フ方面ニ使ヘト云フコトヲ指令スル積リデゴザイマス、一ツノ開催條件トシテ此ノ法律ノ施行規則ノ上、或ハ命令ノ上ニ於キマシテ、サウ云フヤウナ運営ノ途ヲ決メヨウト云々考ヘ方デゴザイマスカラ、唯二分ノ一ヲ使ヘト申シマシテモ、地方競馬ハ全國一都二府四十二縣デゴザイマス、ソレニ一箇所宛デゴザイマシテ、北海道ハ三箇所ト云フ程度デゴザイマスカラ、今日ノ如キ「インフレーション」氣分ノ浮動資金ノ多イヤウナ時代

ニ於キマシテハ、相當ノ利益モゴザイマスケレドモ、從來地方競馬或ハ鍛錬競走トシテ行ハレタノデアリマスガ、鍛錬競走時代ハ中央ノ馬事會ノ利益ニ致シマシテ、其ノ中央團體カラ更ニ地方ヘ其ノ利益ヲ以テ獎勵致シテ居ツタノデアリマス、曩ノ地方競馬規則ニ依ツテ地方競馬ノ行ハレマシタ當時ノ箇所ハ少イ所モ一箇所ゴザイマシタケレドモ、概ネ一縣三箇所、或ハ二箇所ト云フノデゴザイマシテ、中央ノ團體トシテ帝國馬協會ト云フモノガ納付金ヲ取ル、ソレヲ地方ニ振向ケテ居ツタノデアリマス、處ガ地域的ニ考ヘマズルト、馬ノ生産地方ハ、今迄ノ成績ハ非常ニ悪イノデアリマス、馬ヲ生産供給ヲスル北海道デアルトカ、東北デアルトカ、北信デアルトカト云フヤウナ方面ノ地方競馬ハ、殆ド經濟的ニ成立致サナイ、却テ損失ヲ招イテ非常ニ苦境ニ陥ツテ居ルト云フヤウナ所ガゴザイマシタノデ、當時ノ經濟緊迫ノ時ハ矢張り東京デアルトカ、神奈川縣デアルトカ、京都、大阪ト云フヤウナ關西、東海地方、斯ウ云フ方ハ馬ノ生産ハ致シマセヌ、馬ノ使役地デゴザイマス、此ノ方面ノ賣上ガ非常ニ多ク、利益ガ多カツタノデアリマス、サウ云フ方面カラ取ツタ利益ハ地方へ均霑スルヤウナ方法ヲ採ツテ居リマス、此ノ爲ノ建テ方モサウ云フ工合ニ運用セラレルノデアリマシテ、馬ガ少ク、生産モ致サヌト云フヤウナ關西ノ地方ニ非常ニ賣上ガ多クテ利益モ多イ、馬ガ澤山アツテ、ソレノノ經費ヲ非常ニ要スル東北方面トカ、北海道方面ニ於キマスルト、賣上ガ少ク、利益ガナイ、或ハ缺損ニナル、斯ウ云フヤウナコトニナリマスルノデ、サウ云フ所ヘハ多ク

利益ノアル方カラ其ノ方ヘ段々ト廻シテ行クト云フヤウナコトデ立ツテ參リマスルカラ、政府ノ助成ガ復活致シマセズ、現在ノ儘デ將來行フト致シマスレバ、此ノ地方競馬ニ依ル利益ハ、ナカナカ一定額ヲ決メテ、社會事業デアルトカ、他ノ方面ヘ之ヲ振向ケサセルト云フコトハ困難デナイカト存ズル次第デアリマス

○委員長(子爵西尾忠方君) 如何デセウカ、御諮リ致シマスガ、今日法案ガ出マシタバカリデ、御受取ニナツタバカリデゴザイマシテ、内容ニ付テノ御検討ノ時期モナイト思ヒマス、又今日餘リ御質問モナイヤウニ思ヒマスノデ、若干時間ハアリマスガ、此ノ程度ニ致シマシテ、今日ハ散會ヲ致シ、明日ハ本會議ノ關係上チヨツト速記ガ間ニ合ハナイヤウニ存ジマスカラ、明後日十三日午前十時カラ開會致スコトニ致シタイト存ジマスガ、如何デゴザイマセウカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ  
○委員長(子爵西尾忠方君) デハ本日ハ之ニテ散會致シマス  
午前十一時四十一分散會  
出席者左ノ如シ  
委員長 子爵西尾 忠方君  
副委員長 男爵三須 精一君  
委員  
侯爵四條 隆徳君  
伯爵南部 利英君  
子爵北小路三郎君  
小山 松吉君  
松村眞一郎君  
男爵徳川 誠君  
男爵斯波 正夫君  
瀧川 儀作君  
安田伊左衛門君

有馬忠三郎君  
名古屋三吉君  
渡部 信君  
大石 倫治君  
農林事務官 難波 理平君

政府委員  
農林事務次官 大石 倫治君  
農林事務官 難波 理平君

昭和二十一年十月十日印刷

昭和二十一年十月十一日發行

貴族院事務局

印刷者 印刷局